

‘98 熊野黒潮130kmウルトラマラソン

山猫@滋賀

9月12日の『野辺山』は膝痛でリタイヤし、それでも4週間後の『熊野黒潮』には出たいとの強い思いは変わりなかった。最終調整のため、9月末には京都・笠置温泉へロングタイトでの48km LSDも順調にこなせ、臨戦態勢は整っていた。ところが10月に入ってから、太股や脹ら脛、背中にかかなりの張りが出て、夏の走り込みが逆に疲労となって現れてしまった。前々日にはアクシスで可能な限りの針治療を施して、大会に臨む形は整った。

10月9日、11時半に草津線で柘植、関西線の亀山経由で津より紀勢本線で特急「ワイドビュー南紀」に乗る。途中の紀伊長島や尾鷲では山が海付近まで入り込んでいたが、熊野に来ると海岸線がよく見えるようになった。明日は今でも鮮明に残っている「すさみ」の海岸線を見られるかと思うと嬉しくてたまらない。新宮には16時過ぎに到着。暑いぐらいの天気だ。新宮は結構大きな街だ。歩いて約10分、「熊野速玉大社」に到着。朱色が鮮やかな熊野三山のひとつだ。もう参加者達が集まり始めていた。ここで隣にいた徳島の佐藤さんと話をする。受付まで2ヶ所に置ける着替えの準備に時間をつぶし、夕食を食べに行く。

6時半頃に戻り、準備を始めるとUMMLシャツが目に入る。和歌山の井戸端さんだった。昨年、宿谷さんと併走しながら『飛騨ウルトラ168km』を完走された実力者だ。間もなく開会式、説明、そしてひとりひとりマイクを持って自己紹介。終わると熊野速玉大社内御祓いを受けた。何だか威厳を感じさせてくれた。

蛍光ベスト、点滅ランプ、発光ホタル、懐中電灯の安全装備にボトルや補給エネルギー、カメラ、ワセリン等を入れたウエストポーチを腰に巻く。熊野速玉大社の入り口で写真撮影が終わると98人が**21時一斉にスタート**。本当にノンサポートのウルトラは始まった。初100km越え、徹夜・・・、どんな苦しみも、楽しさが待っているのだろうか。夜で負荷がわからないのでハートレートモニターを付けて臨んだ。



新宮の街は明かりでいっぱいだった。国道42号線の歩道を走り出すといきなり信号待ちで調子が狂いそうだ。歩道が続き、5kmくらいから高低差のあるアップダウンがあった。暫くすると暗くなったので懐中電灯を灯し、足元の段差を照らす、暗すぎてわからない。

宇久井駅前(8.7km)、ここで時間をチェックすると1時間03分。何と7分/kmペース。体感的にはもっと速いが、夜なので慎重になっている分かなり遅くなっている。これはみんな同じ。もう少し先に進むと左手に勝浦温泉街が見えて来た。一番端に見えるのが「ホテル浦島」のようだ。那智駅前少し明るかったが、間もなく暗い世界に入って行く。

湯川トンネルを越えると湯川温泉の看板が見える。サポートカーが見えたと思うと**湯川駅前(18.**

3 km) だったが見落としそうになる。小刻みなアップダウンがあり、歩道が無く狭い左端を懐中電灯の明かりを頼りに前に進む。トンネルが次々にやってくるが、この辺りからは歩道がない。しかし、トンネル内は幾らか明るいのが救いだ。そして、20 km「くじらの町」太地町に入る。ずっと自販機ではウーロン茶を買い、腰を降ろして太股、膝、脹ら脛をアイシングした。結構暑くて汗がにじみ出る。下里大橋を渡って間もなく日付が変わった。これからは紀勢本線と並行になり、左手は玉ノ浦の海岸線となり、時たま潮風が吹き抜け、汗をかいた肌には冷たく感じた。車はたまに出会うくらいに減っていた。

浦神駅前(27.0 km) を過ぎると3 kmほど一旦海岸線に別れを告げ、古座町に入った。月明かりで懐中電灯はいらないくらいになっていた。大夫疲れも出てきた。ランナーもまばらで前後には誰も見えなくなった。全くのひとり旅だ。ここから紙に書いたポイントがなかなか現れず、不安になる。ポイントに書いてある津荷橋に来るとホッとす。サポートカーの人に「古座大橋」を聞くと「間もなく」と言われた。そして赤い欄干の長い「古座大橋」(37.2 km) で2時前になっていた。再び、紀勢本線を右に、防波堤を左に見ながら所々にある外灯に照らされながら、姫駅前を通過。着替えの橋杭岩はもうすぐだ。

こんなに遅く着くとは思ってもいなかった「橋杭岩」(42.2 km) には2時27分漸く到着。自分の袋を捜し、腰を降ろして休む。おにぎりを入れなかったことが悔やまれるが、今の状態で食べられたかどうかはわからない。トイレに行くと夕食で食べたみそ汁のワカメを戻してしまった。長袖と靴下を着替え、持って走ったバランスパワーやカーボショットもあまったので、この先、出来るだけ少なくして臨むことにした。そして、眠気防止剤のオールPキングを飲むが、それほど気にならない味だった。残念ながら大会側では水を置いておらずガックリ。仕方ない。20数分休み、少し走ってから、また自販機に立ち寄りボトルに給水。暫く進むと24時間営業の喫茶店があり、思わず気になった。

3 kmほど進むと潮岬東入口(45.3 km) の信号があり左折する。外灯が一気になくなり、懐中電灯はしまっているが、月明かりで何とか朝までいけそう。何人かが前後しながら走る。海岸線なので、相変わらず時たま吹く潮風が肌寒い。

48 km過ぎから一気の上りに差し掛かり、ここで踏ん張って後続に差を付けるが、上り切ると自販機があり、一休み。猫が近寄って来てくれた。下りの後、また上り。ここでも踏ん張り、やっとチェックポイントの「潮岬タワー」(51.6 km)。4時10分、朝は遠い。南国ムードが漂い、前方から潮岬灯台の回転する光が眩しかった。本州最南端の表示が目に入る。かなり眠くなってきた。むしろ疲れからきたのかもしれない。潮岬西側に来ると月明かりは影に入り、前方が見辛くなった。アップダウンは相変わらず続き、走り続けるのが辛い。間もなく前方に2人連れのランナーの点滅ランプが視野に入った。何とか詰めようと踏ん張ると、上りで2人は歩き出した。一度は抜かれたが、殆ど走り続けたので半島最後の長い下りで視野から消えた。

朝4時51分、潮岬西入口(56.8 km) を左折し、国道42号線に戻る。斜め右手にコンビニが開いていたが、誘惑には負けなかった。それほどでもないが眠気の影響で身体が動きにくいようだ。適度にある自販機ではウーロン茶でパンパンに張った両足を冷やし、気を立て直した。5時30分に「串本海中公園」(62.0 km) を通過。東の空は幾らか赤みを帯びてきた。しかし、背中側なのでその姿はわかりにくい。間もなく延々と続くアップダウンが始まり、遂に歩き出す。上りは歩いたが、下りは必ず走った。これでもか、これでもかと上り坂はやって来るが、その後に必ずある下りが楽しみだった。

6時過ぎに後ろを振り向くと太陽が昇り始めていた。曲がりくねった海岸線に入ると「レストラン三和」(68.6 km) の看板が見えるが、ここからが遠かった。着けばそばでも食べられる、との思いは打ちのめされ、店は開いておらず、結局は自販機だけ。栄養ドリンクがあったので飲み干す。個人サポーターをつけているランナーがお粥を食べている姿を見て羨ましかった。反面、ノンサポートで走っている自分は強いんだとの思いが強まる。

この辺りに来ると車の数が徐々に増え始め、前後のランナーの顔ぶれが決まってきた。みんな上りは歩き、下りになると走るパターンに徹しているようだ。私は歩きが速いようで上りになると必ず抜かしたり、詰め寄ったり出来た。途中で栃木クレーゼランナーズクラブの相馬さんから股ズレがひどいのでワセリンを貸して欲しい、と言われ貸す。ウルトラは助け合わないと。星野の坂を上り切った所に「うかい商店」の看板があり、腰を降ろしてバランスパワーを食べ、給水するが、なかなか立

ち上がれない。無言で3~4人が休んでいる。先は長い。江住駅前(79.4km)の坂は走って上り切れたが、そこからかなりきつくなった。しかし、後50kmも残っていると思うと弱気にはなれない。見老津駅前83kmのチェックポイントは8時38分に到着。スタートして間もなく12時間になる。まだ12時間あるとはいうものの、これからの12時間は大変だ。

「道の駅イノブータンランド」(86.2km)の看板が見えてから、何か待ち遠しくなる。腰や背中がだるく、太股の付け根は相当張っている。この張りは何とか持つだろうと自問自答する。イノブータンランド近くになると好天も重なり、車は相当量になってきた。そういえば今日は体育の日だった。時差間隔は完全に鈍っている。右側にあったので、左右を確かめながら横断し、しばし休憩。ここで荷物を降ろし、大阪方面から遊びに来ていた女性と話をするとウルトラランナーとのこと。休憩所に入るとウォータークーラーがあり、水にありつけた喜びでいっぱいになる。徳島の佐藤さんが追いついて来た。後7km弱進むと着替えに辿り着けるといふと何だか元気が出る。この辺りだと思ふが「恋人岬」の看板があり、写真を撮る。



休んだ後は元気に走り出せるが、暫く進むと平坦になっても歩き出すことが度々。だが、トンネルだけは走った。歩く歩道がないので怖い気がしたから。着替えが待ち遠しい。左手にあるすさみ町の海岸線は高校の時に見て以来だが、長い道のりの中で会いたかった場所だ。コバルトブルーの海に浮かぶ小さな島や様々な形をした岩々にしばし目を向けながら、前に進む。狭い左脇を走っていると「すさみ温泉」の看板が見え始めた。前の相馬さんが右に寄り、視界から消えたので着替えポイント「堀谷石油」(93.0km)とわかった。手前の釣具店でミネラルを買い、堀江石油に入るなり椅子に腰を降ろす。ここで重かったカメラとサングラスを袋に返し、出来るだけ軽くしようと考えた。補助食はかなり余っており、この先持ってもそれほど食べられないと判断。暑さもかなりなので腰には普通サイズのタオルをぶら下げて走ることにするが、後々、重宝した。残り37km、もうフルマラソンの距離を切っているかと思うと気分的にホッとする。明るいうちにゴールできるだろうか。

すさみ温泉街を背に歩いたり、走ったりを繰り返しながら、朝来トンネル手前で海岸側に左折する。海岸線は釣り客で一杯だ。岩に渡って釣りをしている姿が怖々しい。そんな光景を眺めながら、走り歩きを繰り返す。長い下りを走り切ると頭上に国道42号線が見えたが下を潜り、迂回しながらまた海岸線を走る。下りも辛くなってきた。日置川大橋手前になるとどうしようもない状態で、ずっと歩き出す。最も辛く、長い区間だった。全く走れない。これから先を案じる。2つのトンネルを越え、狭い日置川町役場前道路を過ぎると今度は「道の駅志原海岸」(103.2km)の看板が見え、左手の海岸線は千畳敷だった。道の駅志原海岸の矢印が左なのに右に間違え、横断してしまい、慌ててまた左に横断。かなりボケているようだ。車が多くなかなか通してくれなかった。ここでシートに足を伸ばし、缶コーヒーを飲んでゆっくりと休憩。順位を聞くと46位だった。時計は正午を廻ったところ、15時間が経過していた。

これから椿温泉までが一番苦しいところと井戸端さんに聞いたが、その場面にやって来た。笠浦トンネルを越えると下りで走れたが、暑くなり冷たい水分が欲しくてたまらない。ボトルに入っている水は生温い。そしてコースで最も厳しい坂が待ち受けていた。上りはずっと歩いた。前に相馬さんが見えた。彼も歩いている。前方はみんな歩いている。急な下りはゆっくりと走れたが、次にある急な上り坂ではヘトヘト。「もう二度とウルトラなんか出るもんか。フルで十分」を繰り返す。しかし、「歩き通しても、今回はゴールを目指そう」はあった。山中なので自販機もない。右手にある椿温泉の看板の距離が気になる。急で長い下りを歩いているうちに相馬さんを抜かず。先が開け、家並みが見えて来た。椿温泉のようだ。やっと辿り着けた。

ホテル群が目の前に迫る「椿温泉バス停」前の食料品店でミネラルを2本買って、頭に足に冷水を掛け、身体を伸ばして休む。バランスパワーも食べた。あと20kmだ。10分以上休み、防波堤沿いをゆっくりと走り出す。右側に自販機があったので冷たいものを飲みたく渡ったは良いが、今度はスピードを出す車が頻繁でなかなか渡れず四苦八苦する。暫く進むと緩い上りに入り、ずっと歩き続

ける。「**一目坂トンネル**」(115.5km)を越えると右手にチェックポイントがあったが、左側にあったコンビニに立ち寄り、キャラットジュースを買う。冷房が良く効いており、店から出辛くなる。右側の歩道に渡り、歩き続けるうちに富田川が見え、この先、またまたヨレヨレ状態で歩く。富田橋、白鷹橋を越えると何とローソンがあった。看板が懐かしく感じた。寄りにはしなかったが、当然駐車場で一息。少し走ってもまた歩く。そんなパターンで歩道を進むとチェックポイントが見え出した。どうも郵便橋のようだ。25℃以上上がった気温のせいでずっと汗を拭き通し。椅子にどっしりと腰を降ろし、水と飴をもらう。「あと9.5km」と聞く。腰が痛くて辛い少し休んだおかげでまた走り出せた。

ずっと左側を流れていた富田川に掛かる郵便橋を渡り、右折する。富田川は大きな川だが2級河川だった。ここから左路肩が狭く走れないので歩く。もう少しだが、20分に1回くらいの割合で腰を降ろし休む。歩道に掛かってからは走り出せた。上富田町に入り、車の量は更に増していた。むしろ渋滞だ。311号入口信号手前で500CCの冷たいミネラルをサポートから頂いた。暑いだけに助かった。国道42号線は渋滞で車中から変な目で見られた。中には声援もあった。田辺市への境となる「**田鶴トンネル**」(124.8km)は気合いを入れ、ペースアップして上った。

500mほど下ったところに最後のチェックポイント。ここで東京都青梅市の松永さんを捕らえる。奥さんがサポートされていた。「足の指の根元が痛い」と言われていたが、私は後ろを付かれ、逆にその気合いに観念し、歩き出す。うなだれながら「橋谷交差点」「オークワ専用橋」まで歩き、42号線から左折すると奈良の芳村さんが自転車で「**闘鶏神社**」まで誘導してくれた。「熊野黒潮130kmウルトラマラソン」の旗が掲げられたところを左折するとゴールが見えた。境内の砂利道の鳥居を越え、130kmの道のりに終止符が打てた。**10日の16時23分に笑顔でゴール**できた。



19時間23分04秒。長い長い時間と130kmだったが、「もうウルトラはやめよう」「これをやって何になるのか」「ウルトラは最後にしよう」と途中で何度思ったことか。しかし、このゴールの瞬間「参加して良かった、次はどこに参加しようか」と思ってしまうウルトラマラソンの魅力。井戸端さんが手を差しのべてくれた。頭を下げて握手。すぐに和紙で書かれた完走証と完走メダルを頂く。嬉しくてたまらない。今までで一番思い出深い大会になった。荷物をまとめ、ホテルに向かおうとすると相馬さんがゴールに向かっていたので写真を撮って、握手。「椿温泉から凄い頑張りでしたね」と言ってくれた。

ホテルに着くベッドに横になった。すると両手が痙攣し、びっくりする。ウーロン茶とミネラルばかり摂ったので塩分不足になったようだ。紀伊田辺駅前ですばを注文するが全く受け付けない。その

後、薬局で朝鮮人参栄養剤を湯で割ったものを飲むとその後持ち直せた。20時30分頃、再び鬮鷄神社に向かうと最後のランナーがゴールしたところだった。これで本当に熊野黒潮130kmウルトラマラソンは終止符が打たれたと思った。

ホテルに着くベッドに横になった。すると両手が痙攣し、びっくりする。ウーロン茶とミネラルばかり摂ったので塩分不足になったようだ。紀伊田辺駅前ですばを注文するが全く受け付けない。その後、薬局で朝鮮人参栄養剤を湯で割ったものを飲むとその後持ち直せた。20時30分頃、再び鬮鷄神社に向かうと最後のランナーがゴールしたところだった。これで本当に熊野黒潮130kmウルトラマラソンは終止符が打たれたと思った。

翌日の11日、田辺労金で「アワードパーティ」が開かれ、家族を含め100人以上の人が参加。抽選会と食事がメインだが、抽選は当たらなかった。隣にいた栃木の相馬さんは翌週に「越後くびき野100km」に参加すると言われており、「さようなら熊野黒潮130kmウルトラマラソン」と書かれた横断幕の下で写真撮影。いつになるかわからないが、再会が楽しみだ。

大会はある程度の参加者のある大会が良いと思っていたが、今回この大会に参加し、手作りが一番素晴らしいと感じた。真夜中の孤独の走り、潮騒が寂しくもあり、後押ししてくれるようでもあり、ロマンチックだった。応援もなく、自分のことは自分でする、不自由を楽しむ。これこそウルトラランニングであると思った。プログラムにあった「130kmという長い道のりを走り続けることにより、『喜び』と『感動』と『優しさ』を感じ、『やれば出来るという力強さ』を社会にアピールし、ひとりひとりがウルトラランナーとして『自然』や『人』について考えながら走ることの素晴らしさを感じて欲しい」と。

またいつか、この素晴らしい海岸線を一泊くらいで「熊野黒潮130kmウルトラマラソン」のことを思い出しながら走りたいと思う。